



繪本烈戰功記

2257  
8



待  
門入遠13  
稿2257  
卷8

流清



繪本烈戰功記卷之八

目錄

- 武田信虎在駿州事
- 信虎入道練於氏真園
- 信虎送密使於甲斐事
- 盃尾之城合戦之事
- 成田長安供遊之事
- 長安宴飲之圖
- 成田家不和之事

烈戰功記卷之八

武

武田信虎在駿州事  
 信虎入道練於氏真園  
 信虎送密使於甲斐事  
 盃尾之城合戦之事  
 成田長安供遊之事  
 長安宴飲之圖  
 成田家不和之事



繪本烈戰功記卷五八

武田信虎在駿州事

前甲州太守武田左京大夫信虎と。割勇並双の猛將と。緒  
 方の軍は一交も不覚乃名と。我ま下も孫傳暴西に之  
 孕婦の腹と割別。我の警者皆定は屠り。長子晴佐と西。忠臣  
 とも討つ。其暴虐言たり。國家乃た急。小迫見  
 せせ。老臣忠士侍る道守。遂小強。今川家と  
 今川家と押籠。晴佐と。武田家。我。今川家と  
 初。手。敷。と。知。と。後。



長安於寺院計防兵國

行

乃西行と懐ひ深く後悔あり。又心付りて。程昔小  
智く業跡と正されども。氏元も亦舅の若くも。飯  
暎ひ父の如く。教を。今川家の。然も。信虎を。家敷  
と。家事。大。あ。聖年。天文八年。秋。信虎毒服。又。男。子。後  
らる。是。河上。聖。介。と。号。す。其。後。天文。十四。年。の。去。又。一。女。子。と。後  
て。子。十。五。女。と。り。年。の。去。氏。元。を。か。り。た。り。て。京。都  
今。出。川。晴。季。御。へ。縁。と。結。び。後。氏。より。興。入。り。て。婿。に。な。り  
これ。ち。る。其。後。永。禄。三。年。の。夏。又。月。氏。元。小。田。と。戦。ひ。尾。張。捕  
獲。間。に。於。て。死。あり。た。れ。ば。信。虎。と。は。り。今。川。の。諸。士。圍。殺。し  
た。り。た。り。て。然。傷。も。限。り。あり。ち。る。其。後。三。年。と。り。て  
と。り。た。り。氏。元。結。ひ。合。戦。の。所。治。も。な。く。只。風。流。と。西。に。更。り

執を織

吊

敵

三浦が勢道は迷ひて。後日と違ひ。其。信。虎。入。り。元。來。猶。勇  
氣。隆。の。人。な。れ。た。氣。と。い。ち。ち。て。氏。元。は。備。へ。中。れ。ち。り。た。り。て。田  
楽。窪。乃。一。戦。小。勝。元。小。田。の。乃。は。付。死。あり。け。入。り。た。り。合。戦。な。り  
に。あ。は。し。氏。元。も。悔。じ。と。推。察。し。た。り。の。知。り。あ。ら。ま。は。り。入。り。昔。の  
如。く。甲。兵。は。在。て。二。三。千。に。お。り。と。自。内。は。お。あ。り。今。年。七  
旬。及。ぶ。と。い。ち。ち。も。尾。張。は。押。寄。り。小。田。と。有。妻。の。一。戦。河。邊。に。あ。り  
老。老。の。入。り。た。り。斯。の。如。く。此。年。子。も。氏。元。供。不。載。た。り。て  
田。と。元。附。も。見。持。屋。並。べ。た。り。あ。り。急。ぎ。結。ひ。の。一。戦。有。妻。事。之  
信。虎。老。者。と。い。ち。ち。も。一。段。進。む。故。河。村。乃。は。く。は。あ。り。今。年。七  
て。雙。敵。の。首。引。提。中。と。い。ち。ち。も。示。し。勇。威。を。顯。し。言。語  
烈。く。後。ら。り。と。い。ち。ち。も。氏。元。は。耳。も。聞。け。ぬ。と。い。ち。ち。も

織

川氏カ...

ありちるを。佐虎きく。因とて。氏共。程。思ひ。て。も。び。に。を。被。傷。三。浦。が。不。成。り。た。り。取。知。も。あ。く。あ。り。た。り。の。故。一。族。良。黨。も。三。浦。が。推。威。小。持。ま。し。一。言。に。と。者。は。嗚。呼。云。甲。斐。あ。れ。ま。う。ま。と。て。身。の。昔。ふ。た。と。今。川。家。の。老。き。を。思。ひ。や。い。の。後。乃。不。行。跡。と。速。く。氏。共。が。眠。り。と。三。浦。右。衛。門。尉。才。五。郎。庸。愚。の。文。に。て。常。館。又。出。頭。と。と。致。き。下。と。と。其。上。法。士。と。と。み。あ。り。て。云。國。の。基。と。登。け。者。も。あ。く。退。退。け。ぬ。ら。ん。お。わ。り。の。禍。災。蕭。牆。乃。か。不。起。い。ん。と。三。浦。乃。被。傷。居。も。の。隠。悪。と。作。り。終。く。終。ら。ま。ち。れ。ば。氏。共。大。に。氣。を。と。換。じ。御。と。わ。り。と。

奥深く。再。對。面。あ。り。け。ま。じ。の。佐。虎。然。然。と。居。れ。る。が。嗚。呼。登。子。も。に。練。よ。と。と。強。を。館。と。出。れ。る。三。浦。が。徒。足。と。聞。より。三。浦。乃。佐。虎。と。傳。て。甲。斐。の。膏。葉。入。道。と。異。名。が。付。く。種。々。と。後。一。ち。れ。ば。氏。真。も。佐。虎。乃。剛。強。が。忌。如何。も。あ。る。強。勁。を。發。せ。ら。れ。ん。も。あ。ま。し。と。て。遂。に。佐。虎。と。一。室。に。押。込。處。裏。危。が。付。く。佐。出。と。止。ま。さ。り。佐。虎。程。思。惟。あ。り。氏。真。愚。將。と。れ。た。也。申。も。終。云。と。用。る。朝。有。て。守。と。思。ひ。持。て。密。に。一。室。と。ぬ。け。出。遠。路。を。立。退。ま。さ。ん。か。つ。ま。り。ほど。な。流。流。る。者。も。あ。り。氏。共。が。致。逸。益。募。り。三。浦。が。徒。に。討。た。り。今。川。家。の。時。弱。隣。國。也。と。聞。返。す。朝。り。と。万。人。の。指。目。に。な。り。信。虎。送。密。使。於。甲。斐。才。

信虎送密使於甲斐才

釋



今川



武田 佐虎  
氏 其  
練 國

佐虎

死八陣巧言卷十八

武田信虎入乃遠及掛川系福寺とて梵宮と移住有て二人  
の律僧は内令と合り甲府は遣く。信虎入道より密に信玄  
公へ申通され大才の間。自身近く仕らるる。亦も忠貞乃  
者有まき人け方へ遣り。誠心しとて申送らるる。是より先  
信虎駿州に立て善心より之れを悦び感とて。信玄より駿州  
に使者と命く。信虎が甲府へ遣へ中さんと勸めらるる。事敷  
及及びけまども。信虎を我子及び一門良意より之れを  
逐出せしむる。而るの悪約とて。是より先。飯岡して  
何面目ありて一國の士民は面と合さんやと。深く慚愧ありて  
飯岡の備へし。小待客ありちりよ。今に至り遠及より密使  
が送らるる事。信玄とありりて。信玄早速日向原を齋

小作村らまき使者の傍と信は系福寺へまをされたる。日向原  
に甲府を歩支十七日遠及掛川の系福寺を看ぬ。其夜  
あて。信虎をまき。小原を歩支。召はし。湯をわたり。日向原を  
言と。小原ある事。何者の子とまき。やと。召らる。原を歩支。畏  
る。日向大和守昌時が一族とて。信虎の者として。居る。左府乃  
時分。未幼なり。大和守が方。又養はれ居る。ひひ。と。中  
を。信虎をまき。と。曰。大和守が一族と。信玄が。服近と。有  
ら。心お。く。な。ら。や。あ。一。中。と。召。近。と。召。ま。て。曰。信虎老  
臣。小。と。ま。き。去。り。天。文。七。年。甲。府。と。遣。出。さ。れ。て。後。乃。原  
を。一。と。二。十。六。年。後。小。春。秋。と。さ。し。一。と。二。十。七。日。小。及。入。り  
予。強。及。不。あり。て。一。た。ん。と。信。玄。が。み。一。と。二。十。七。日。も。あ。り。つ

武田信玄評書







敵攻

ある川家程の國弱亂隨らあざざれども。廿二、廿三日。廿四日。廿五日。廿六日。廿七日。廿八日。廿九日。三十日。三十一日。一月。二月。三月。四月。五月。六月。七月。八月。九月。十月。十一月。十二月。

紅心  
梅

ある川家程の國弱亂隨らあざざれども。廿二、廿三日。廿四日。廿五日。廿六日。廿七日。廿八日。廿九日。三十日。三十一日。一月。二月。三月。四月。五月。六月。七月。八月。九月。十月。十一月。十二月。

金鹿

成田長安。孟尾の古陣より追うたつて聞いど後結しと  
 成田勢と赤碓うんと二千餘騎とて討つ出。長安が徳目  
 け。因と発金鼓と鳴し。二に三に加入せれば。成田長安不意  
 此後結し仰天とて散る。あつれんと。陣兵屹とえん。けり  
 結戸原四郎城門現と印する。二百餘騎とて討つ出。城は四郎  
 志先と進む。大太刀城振て籠はつれば。長安前後に散る。け  
 一も口口。るると。逃中。されど。諸軍共。乱れ  
 ち。右住方付と急走と。長安い。う。後ま。や。走。り。不。ま。て。夜一  
 夜。逃。ち。り。が。次。の。日。不。至。て。や。と。思。の。城。を。ぞ。ゆ。ま。り。結。戸。原  
 四郎。太田。三。木。猪。岡。と。揚。て。兵。と。ま。り。あ。ち。取。処。の。首。級。と。越。後  
 不。送。て。勝。軍。の。次。牙。兵。を。ま。り。告。ち。り。

敵  
 驚

成田長安侯 避之事

成田長安。孟尾の古陣より追うたつて聞いど後結しと  
 成田勢と赤碓うんと二千餘騎とて討つ出。長安が徳目  
 け。因と発金鼓と鳴し。二に三に加入せれば。成田長安不意  
 此後結し仰天とて散る。あつれんと。陣兵屹とえん。けり  
 結戸原四郎城門現と印する。二百餘騎とて討つ出。城は四郎  
 志先と進む。大太刀城振て籠はつれば。長安前後に散る。け  
 一も口口。るると。逃中。されど。諸軍共。乱れ  
 ち。右住方付と急走と。長安い。う。後ま。や。走。り。不。ま。て。夜一  
 夜。逃。ち。り。が。次。の。日。不。至。て。や。と。思。の。城。を。ぞ。ゆ。ま。り。結。戸。原  
 四郎。太田。三。木。猪。岡。と。揚。て。兵。と。ま。り。あ。ち。取。処。の。首。級。と。越。後  
 不。送。て。勝。軍。の。次。牙。兵。を。ま。り。告。ち。り。

川口カ巴巻之八

新編 浮城物語

長安 宴  
飲此  
圖



花女小ちん

新編



成田長安

新編 浮城物語

直子

如何すれ等閑なるべしと長長忠士が...  
 式へ係りし...  
 うげん又嫡子氏長より...  
 為るべし小籠が膝と...  
 居るも...  
 武勇の者あり...  
 温を食わ...  
 以賺して...  
 安公を...  
 長長の家督...  
 一門の...

キヤイナ 和子

早く長安公と...  
 家中一統...  
 中も長安公...  
 母堂の...  
 別い...  
 ざり...  
 密に...  
 守と...  
 幸と...

唐一の思ひもよぐ山海の形あて別荘に元とせ青洲泉の  
如たしく花散歌舞よたれしとちりぞ一日冠帯の小籠西宮  
の事あて己が形を退きしれを。長安城よ心休む勝て  
中しく来し身はけり。城中にありて。病よ入ま  
軽敷盃を傾けけ。醉よ。別荘に立出梅河跡より  
坊まど召連小籠が授け。今換の二節とて。唱徐して昔行  
絶て城門より。長安城よ。長安城よ。長安城よ。長安城よ。  
一後門あり。長安城よ。長安城よ。長安城よ。長安城よ。  
らげて。予下總守あるぞ。兵門せよとあり。らうふ門と叫れ  
ば。唐方なる。城の上よ。半身と頭。と曰何者。われが吾君を  
名取。仍て城門と叫。我君を。苟も。一様王将。あり。あんど

わくと頭巾の眼どろろ出して。撒して。夜中は徒行。ありんや  
傍も。事。依。あて。法。と。何。今。一。箭。射。響。び。た  
ど。大。音。よ。叱。し。され。長安大。又。温。り。你。在。る。人。あ。は。れ。敷。不  
偏。座。と。速。く。主。ふ。さ。云。吐。き。を。揚。ぐ。あ。ぢ。れ。年。余。の。者。中。予  
教。と。辨。さ。ふ。致。疾。く。兵。門。せ。よ。と。息。す。死。く。云。さ。う。れ。と。是。我。君  
に。わ。ら。ぶ。る。形。り。あ。ん。ど。年。替。の。吾。君。不。似。る。事。と。經。書。の。事。と  
年。修。又。速。く。鞠。等。し。は。城。門。より。関。り。ち。る。長安益。く  
ゆ。り。不。患。奴。今。よ。あ。い。あ。く。せ。ん。ど。と。ゆ。ふ。り。甲。中。く。藍。き。の  
た。る。煙。よ。飛。入。水。露。の。植。口。より。濡。け。け。城。中。へ。入。ら。ん。と。林  
ふ。後。く。梅。阿。跡。も。ひ。く。後。不。飛。ぬ。と。城。中。あり。と。林  
を。水。門。より。入。ま。し。と。植。口。の。口。く。ま。り。物。上。と。わ。く。と。發

只戎力已卷之三

紙

勅以を傳へて他守初とまきくより。三友十玄清とゆくふ  
繪綱の士が呼。耳が呪く奇針を繕くおれを。十玄清  
心得よりやて。袴のそとをきく。揚。繪綱を提げて樋に  
のきり小指。長安隔く入る。只一突又屠らんと  
おる。不忠の人。非人。繪引とをむく。侍りけたる。是  
ころより。終つて。形を

成田家不和之事

さふほど。成田長安。幸じて水門が隔りぬけ。隘ま  
後。水が流る。事。せ。ぬ。き。も。又。切。て。う。め。を。ゆ。り。て。侍  
ま。う。け。る。三。友。十。玄。清。鉄。石。も。徹。ま。て。突。く。ま。う。る。長。安  
へ。塚。系。ト。傳。が。言。着。と。一。の。太。刀。ま。で。ゆ。り。と。う。け。を。る。程。の

兵法の達人ありおれぬ。三友が突ぬぐる。繪の遠首と水中と  
は。よ。く。へ。と。あ。り。も。と。徐。水。が。切。繪。が。引。小。頃。て。水。と  
よ。う。み。出。せ。れ。ぬ。と。し。め。の。十。兵。衛。轉。して。繪。が。控。え  
ぞ。逃。げ。ぬ。長。安。の。先。梅。河。が。首。筋。引。け。る。と。樋。の。と  
と。投。揚。る。そ。の。父。も。ひ。り。と。お。り。繪。を。引。た。る。衣。服  
の。中。に。幸。丸。と。ま。り。入。る。嫡。子。氏。長。と。引。け。て。繪。を  
不。忠。の。冠。者。言。語。と。繪。せ。り。天。將。の。ひ。き。と。敬。系  
罵。斥。既。よ。り。出。る。あ。ら。ん。守。形。勢。を。み。長。安。が。母。堂。を  
は。け。て。奥。より。出。る。お。も。い。く。れ。繪。を。提。て。日。邊。は。し。の。欠  
業。と。と。あ。れ。は。一。城。の。主。と。下。城。の。女。小。指。と  
酒。と。沈。め。し。と。そ。の。父。が。忘。ま。う。る。い。う。ち。の。事。と。終。つ。て

仰天 辰 開







長安

和尚

長安  
 寺院  
 於  
 防  
 計  
 國

至君。長安が供ふ事。づひく。總剛寺ふり。長安が若  
 致で曰。儲しも若殿。り。今夕は。父君ふ射して。道心  
 ある事。の情。さ。上。臣。疾。も。ぞん。ん。道。を。後。理。を。喻。し。て  
 練。事。も。な。ら。な。い。と。今。夕。は。父。君。の。道。勢。ど。ん。せ。ら。り。く。は。頭。撃  
 持。仕。ん。こ。と。あり。氏。長。公。は。心。ん。の。う。あ。る。天。魔。の。い。ま。り。り  
 ひ。や。ん。ん。これ。と。天。は。宵。き。と。あ。ん。と。中。り。の。さ。れ。嗚。呼。情。を。た  
 け。事。う。れ。と。涙。を。流。し。て。悔。え。ぢ。れ。た。長。安。を。為。と。為。と。為。と  
 腫。れ。が。虚。位。う。こ。こ。こ。痛。し。氏。長。が。逆。心。も。悔。が。如。あ。と。つ。て  
 へ。僻。眼。う。言。葉。と。あ。ら。も。釋。け。一。連。退。る。ん。せ。よ。と。い。ま。ま。た。て  
 罵。ら。れ。ぢ。れ。た。を。為。肺。肝。と。い。ぬ。れ。皮。面。火。の。如。い。り。り  
 う。ら。も。得。あ。げ。と。跡。ま。ご。り。一。は。逆。中。り。る。が。喘。ぎ。く

天

仰

城中より。氏長不測。物も某。總剛寺ふり。長安が若  
 練言。ゆ。り。く。も。長。安。公。の。赤。督。の。事。也。や。り。小。は。承。引。あ。く  
 中。と。面。強。心。底。と。は。な。げ。は。序。は。彼。寺。へ。押。寄。長。安。公  
 戎。虜。奉。り。甲。乙。の。武。田。乃。如。又。連。絶。國。へ。賺。中。と。君。在。家。督  
 と。お。續。し。ゆ。こ。そ。流。先。祖。へ。の。孝。と。い。く。と。倭。兵。を。振。て。流。勅  
 け。連。軍。勢。の。小。分。が。ど。う。たり。ち。り。は。は。總。剛。寺。へ。編。圖。へ  
 ぢ。れ。ば。長。安。公。の。う。り。今。の。我。子。と。用。控。の。あ。り。吾。君。の。さ。の。こ  
 と。助。る。愚。者。と。ぞ。ま。り。た。り。ち。り。と。我。の。悔。し。み。の。怒。の。練。の。方  
 有。眼。で。立。居。ら。ま。ぢ。れ。た。長。安。公。も。作。不。温。を。發。し。君。の。作。法。を。至  
 極。せ。り。父。は。應。せ。ぬ。あ。と。と。を。り。く。と。も。思。代。の。大。種。那。の。老  
 急。う。と。い。ん。ち。り。も。馬。と。あ。れ。ば。不。肖。う。が。り。寺。中。一。周。を。巡。る

長安公

十六

に属し。ゆきぬ。一死し。いりんと。大流と。廣庭と。長刀。不忠不孝の氏  
 軍令が。中。寺中。准。依。知。の。陰。長。刀。不。忠。不。孝。の。氏  
 配。當。し。と。熱。勢。お。よ。び。余。人。四。方。の。門。と。し。と。い。ふ。不。忠。不。孝。の。氏  
 長。男。寄。來。と。い。ふ。連。よ。歩。控。と。長。安。公。の。陣。中。又。入。來。り。ん。と。い。ふ  
 本。來。の。面。目。お。れ。と。首。座。唱。食。よ。い。わ。す。す。で。皆。氣。頂。上。の。陣。巻  
 ため。編。組。右。肩。踊。躍。あ。く。我。よ。い。わ。す。す。と。い。ふ。信。侶。の。形。勢。最。終。の  
 こと。と。い。ふ。こと。り。り。り。陣。中。より。も。流。石。一。肘。り。い。よ。も。き。き。と。い。ふ。こと  
 鬼。や。角。と。時。目。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 また。小。条。氏。安。同。氏。政。より。素。原。平。内。と。使。者。と。して。總。別。ち。と。い。ふ。こと  
 今。般。子。息。氏。長。等。父。子。君。臣。の。終。焉。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 對。又。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと

逆徒と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 有。が。れ。也。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 ち。の。中。う。い。今。小。条。の。言。葉。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 亡。ん。是。亦。流。石。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 徒。と。小。条。の。首。の。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 氏。長。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 お。り。い。定。め。幸。總。別。寺。の。長。老。が。戒。師。と。して。剃。髮。條。衣。の  
 衣。と。あり。名。も。蘆。伯。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 平。内。小。對。面。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 とい。う。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと  
 とい。う。氏。長。へ。家。督。傳。り。り。一。國。幸。の。煩。も。お。ほ。い。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。こと

繪本烈戰功記卷之八畢

接板

繪本

二

稀ある年。赤くは是も小菟の居るや言む。あつど方今  
 隠道の後。松風羅月の窓不因く情く幽閑とわらむ。年  
 折又翠帳紅国乃床入く細は聲情とあそむ。年  
 何又返き穂形る主将とぞあ梨々屋。

池

間。さる意と芳せしきまじく。向後の何事も。氏長へ作せられてある  
 だし。いとも中々うら返答あそびられた。素然とあはれりて。小田  
 系又取り。長安返答の次第を言けむ。氏安父子も志あて出  
 る。小及む。どりより。これ小依而。成和の家名。氏長を後  
 し。事故る。どりける。進は長安。姓放逸ふし。あて成るの  
 智る。長安征らるの權あく。蒙せし。梵刹ふ。願惠持  
 乃知。あみゆ。疾も染衣。改而。や余の遠行を。避らる。おの  
 智との。又舟堂の。越成。復し。世。社稷と。や。あ  
 考。二。あ。金。言。他。年。領。向。ふ。し。て  
 遊。女。小。菟。の。菟。包。ふ。し。し。信。信。而。辱。の。み。と。ま。れ。さ  
 何。什麼。彼。旧。悪。と。思。ふ。と。有。あ。と。踏。と。あ。と。恨。

